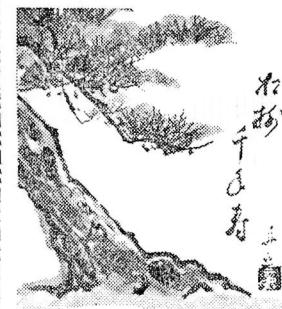


恭 謹 贀 新 年

昭和 56 年元旦



洛女金報

京都市左京区吉田本町
京都大学工学部
電気工学科教室内
洛 友 会

電氣關係教室
教官一同

京都
大學

洛友会役員

副会長	松田長三郎
芦原義重	巽良知
本多静雄	真田安夫
(中部支部長)	(中國支部長)
金井久兵衛	大谷泰之
東京支部長	上之園親佐
関西支部長	永安弘
東北支部長	大森武司
北陸支部長	二村忠元
四国支部長	西岡敬二
北海道支部長	徳岡毅
九州支部長	池内義則
常任幹事	山本茂雄
近藤吉田	河本勝寿
文治	洪二

近畿電氣工事	(株式)	大阪變圧器株式会社	電氣關係教室 教官一同
(株式)近畿電氣工事	(株式)大阪變圧器	(株式)近畿電氣工事	(株式)大阪變圧器
(株式)近畿電氣工事	(株式)大阪變圧器	(株式)近畿電氣工事	(株式)大阪變圧器

近畿日本鉄道株式会社	栗原産業株式会社	京阪電気鉄道株式会社	三洋電機株式会社	株式会社島津製作所
代表取締役 栗原英三	代表取締役 栗原英三	会社本部 京都市伏見区	本社 京都市伏見区	本社 京都市伏見区

シャープ株式会社	株式会社 科友会社	シンコー・メタリコン 株式会社	株式会社
代表取締役社長 立石 孝雄	取締役社長 立石 亨三	取締役社長 十倉 正三	取締役社長 高木 五郎
立石電機株式会社	大和電機株式会社	大和電機株式会社	大和電機株式会社
立石電機株式会社	大和電機株式会社	大和電機株式会社	大和電機株式会社
立石電機株式会社	大和電機株式会社	大和電機株式会社	大和電機株式会社

謹賀新年

昭和56年元旦

トクデン株式会社 代表取締役 北野山人	日新電機株式会社 東京支店 大森	三菱電機株式会社 大阪営業所	北陸電力株式会社	日本電子開発株式会社 代表取締役 トクヤマキカイ
松下電子工業株式会社 社長 三田清二 大阪府高槻市幸町一番一号	日立製作所 関西支店 支店長 加納忠勝	中国電力株式会社	日立化成工業株式会社 取締役社長 高木正	株式会社トクヤマキカイ
片鍛秀雄	フジテック株式会社 内山正太郎 取締役社長 德岡毅	四電工エンジニアリング株式会社 ソフトウエア コンサルタント株式会社	高周波熱鍊株式会社	日比谷総合設備株式会社 近畿コンクリート工業株式会社
松下電器産業株式会社 技術本部 片鍛秀雄	567 大阪府茨木市庄一丁八一〇	株式会社つゆき 連合会	北陸電力株式会社	日本電子開発株式会社 代表取締役 トクヤマキカイ
株式会社電子開発学園 応用科学研究所				

年頭のご挨拶

会長 松田長三郎

明けましてお目出とうござります。

会員の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

① 激動の年 昨年もそうであったように、今年も政治・経済・外交など、波瀾の多い激動の年であるように云われていますが、願わくは世界中が平和であり、幸福な年でありますように祈らざるを得ません。

年頭に際しては、国は國、職場は職場、個人は個人なりに、夫々の今年にかける目標なり希望があつて、目算を立ててその達成に努力しようと、誰しも考えることであります。

現在我国では、デパートや店舗には、商品は山と積まれ、車は街に溢れ、物質と自由を満喫しているかに見えます。歳末には莫大なボーナスが出てふところを温めた方も多いから、年末年始には、

国内は元より、外国への国民大移動があつたようでしたが、一方においては、一家心中とか、銀行強盗などの暗い面も、相当報ぜられていましたし、人の心は、必ずしも穏やかであったとは言えませ

ん。何とかこれを救ふ道を辿りました

② 今、世界の関心事は、エネルギーと食糧問題にあるようです。

我々の生活や産業、その他のあらゆる生活の基本要素であるこれ等の物資は、何れもその大部分を、輸入していますが、以前とちがつて、現在は、持てる国の云いなり次第で、その価格・数量を押し付けられても、文句の云いようがあ

りません。石油でも食糧でも、多少の備蓄は有つても、一旦、海上の安全輸送が止つたら、一体どん

なことになりますか。我国のぼう大な需要量には、焼け石に水であります。一両年来、急にエネルギーの消費節約が唱えられて、或る程度、実績が挙がつて、そのままに、商品は山と積まれ、車は街に溢れ、物質と自由を満喫しているかに見えます。歳末には莫大なボーナスが出てふところを温めた方も多いから、年末年始には、

当局なり政

治家は、

これ等の手当

に對して、海外にも、活潑に動いておられるようですが、願わく

は、実り多い結果が得られるよう期待したいものです。少し悲観的なことを書きましたが、次のような明るい面もあります。

③ 大きな夢 旧暦発表せられた

米国航空宇宙局(NASA)の最終報告書の、宇宙発電計画は、われわれに大きな夢と希望を持たせます。これは相当以前から報道されていたことであるが(京都新聞)、今回の発表によると、面積50平方キロメートル(縦50キロ、横10キロ)の衛星宇宙島(SPS)に、巨大な太陽光発電装置を取りつけ、これを超短波によって地上に送る。この計画によると、SPSは赤道の上空約三万六千キロの静止軌道で、スペース・シャトルによつて運搬した資材で、約500人の作業員が、三ヶ月がかりで組み立てられる。この衛星には、膨大な太陽電池が装架されて、約八〇〇万kWを発電し、二四五〇メガヘルツのマイクロウェーブに変へて、径一キロのアンテナから地球に送られ、地上では、北緯三五度~南緯三五度に置かれた、従一〇キロ、横一三キロの巨大なアンテナにより、マイクロ・ウェーブの八八%のエネルギーを受け、これをダイオード整流器その他装置を経て通常の電力に変える。途中のロスを差し引いて、五〇〇万kWを得られる」と云ふ。

二〇〇〇年から二〇三〇年の間に、一年に二つづつ、計六〇ヶを打ち上げ、結局、全米の電力需要の二〇一二五%を賄える勘定と云う。計画全体で一兆ドルと云ふ莫

大な資金を要するから、最終的には政治的判断が必要とされてい

る。何しろ、米国航空宇宙局が、エネルギー省と共同して、四年近く

も、二〇〇〇万ドルをかけて研究されたものの由であるから、何と

も壮大な夢、単なる一篇のSFでは無く、実現可望性の大きい夢であつてはい。この太陽電池は、どんなものであるか知らないが、現在では、シリコンやアモルファス・シリコン、或は最近には有機性のものまで電子総合研究所その他で研究されている。

④ 大油田 更に今一つの朗報はソ連の西シベリアで、史上最大と云われる推定埋蔵量六一九〇億トンと云われる膨大な油田の発見が報せられたことである(12月5日)。しかし米国の中石油専門家達によると、極めて疑わしいと、一様に否定的ではあるが、世界のエネルギー源のために、これは糠薺びでなく、正夢であつてほしい。我国でも、各所で試掘されているが、日中共同の渤海湾の大陸棚の海底油田の成功が、渴望されてい

る。

⑤ ジブライタル海底トンネル

我が國の土木工学や建築工学(殊に耐震建築)などは、世界の注視する所であるが、北海道と本州との連絡に、青函トンネルの工事が進

行中である。(電力系統は既に一昨年、北本連絡線が完成して、全国連続が達成されている)。今回、スペイン及びアルジェリアとの、関係主導者が、ジブラルタル海底トンネル着工を目指して、我が國の技術及び資金援助を求めて来朝された。ジブラルタル海峡は欧洲の南端、スペインの南部とアフリカ大陸との間、東西の長さ五〇km、幅は場所によって異なるが三〇、二〇、一四kmなどで、地中海と大西洋を結ぶ東西交通の要衝であつて、我が國の歐州航路の本街道であったが、スエズ運河閉鎖中は、遠くアフリカの南端、希望岬を迂回せざるを得なかつた時期があった。

トンネル工事については、丹那トンネル、関門海峡トンネルや、黒ヨン発電所工事、その他世紀の大土木工事が、数多く行はれて來ているから、双方の協議さえ纏まれば、その成功は期して待つべきである。英仏間のドーヴィー海峡トンネルも問題になつてゐる。

日本の技術や製品が、今や破竹の勢いで世界に進出していることは、慶ばしいことであるが、一層謙虚に、現地人に好感を以て迎へられるように、心すべきことである。

⑥ 北陸支部総会

11月8日、同総会は、富山にて盛大に行われま

した。西岡支部長は金沢から、また北陸地方の電力界財界の重鎮金井久兵衛北陸電力会長、森本芳夫同社長、荒井武治同顧問、初め多数の会員が来集され、教室からは、近藤教授、また福井高専の大谷校長及び小生が出席。諸種の議事の外、近藤教授より教室の近況、大谷名譽教授からも近況の報告があり、盛会裡に終了。翌9日は、大谷・近藤両氏と私は、北陸電力の御厚意で、庄川沿線の各発電所を車窓に眺め、荒井顧問の建設当事のご苦心を偲び、平家の落武者の隠棲の地と云われる岐阜県五個山の合掌造りの旧跡に案内され、福井まで送って頂きました。近藤先生は、京都を経て更に東京へ。小生は翌10日、大谷先生の福井工事を見せて頂きました。川に沿ふ明媚景勝の地に、立派な校舎と行き届いた設備、展示場、夜間照明施設の完備したグラウンドなど羨やましく思いました。また越前和紙製作所、越前海岸、真宗本山常照寺等のご案内を受けました。ここに、北陸電力さん、大谷先生に厚く御礼申し上げます。

事さんその他の役員の方々の行き届いたご配慮で、多数のご家族の方々と共に参詣できたことは、ありがたいことでした。厚く御礼申し上げます。

法隆寺には忘れ得ない思い出があります。その金堂の壁画は、超特級の国宝であり、戦前、文部省の依頼により、壁面の照度測定をしたことがあります。その金堂の壁画は、超専門の関係委員列席の席上で、愚見を申し述べたことがあるし、更に、出火事件に対する奈良地方裁判所の公判に鑑定を頼まれたことがあります。忘れ難い思い出を残している。この出火がキッカケで、古文化財保護の法律が制定されました。

⑧ 米寿の弁 私事に亘って誠に恐縮ですが、お許し願います。

昨年、小生は数え年、八十八歳を迎えたので、大正6年、私の卒業から昭和31年11月まで、京都在職中までの卒業生有志の各位によつて、盛大な米寿祝賀会行事を催うして下さいましたことは、身に余る光榮でありまして、感謝感激に堪えぬ所でありました。実は最初、大谷先生から「米寿を祝つて、先生の隨筆集を出した」とのお話しを伺いましたが、拙ない隨筆を、今更と、その時は

ご辞退の気持ちでありますと、たとえ、それが貧弱な隨筆であつたにしても、私の、その時々の心の遍歴、随想・想念の軌跡でもあり、こういう書き物を、纏めて保存して置かなかつた整理の拙さもあつて、この機会に、それが、一冊に纏めて頂けることは誠に有り難いことと思い返して、喜こんで、お勧めに従うことと致しました。その後大谷さんから芦原さんに祝賀記念会代表をお願いされ、隨筆集の刊行、祝賀会の開催等、美事に御計画下さり、隨筆集は、10名の編集委員のお骨折りよつて、原稿の集収・配列・校正等、極めて煩瑣なお手数をかけましたが、お陰で、本冊46倍版388頁、別刷90頁の立派な隨筆集2冊を出して頂き、感謝に堪えない次第であります。この中で、「信友」誌所載の分は、間崎竜夫さん所蔵の大部の同誌から摘載されたもので、同氏のご厚意に厚く御礼申上ます。私の分も有る筈ですが、どこに行つたか判りません。

もとより、北海道から九州まで各地から、遠路遙々、多数御来会下さいましたことは、光榮至極にございました。混雑のため、お一人で一人にご挨拶もできませんで失礼致しました。ここに芦原会長様初め、大谷・近藤・藤村の各位、編集委員の各位、更にこの記念会会事に御賛同下さいました各位に、衷心より、この誌上を借りまして厚く御礼申し上げます。

の興隆發展の時期から、昭和16年の皇紀二六〇〇年の祝典は、大日本帝国の最後を飾る國家的盛典であり、國勢の最高潮のように見えたが、敗戦転落、旧日本帝国は亡びましたが、戰後30數年にして、世界も義やむ經濟大国に成長して來ました。この激動の時事を、広く世界の治亂興亡の歴史を親しく見聞し経験したことは、またと無い経験でありましたが、自分としては、象牙の塔に守られたままにして、直接世の荒波にもまれることはありませんでした。感銘・非憤、交々の感懐の、ひしひしと身に迫る思いをしたことも、度々ありましたことは、今では、むしろなつかしい思い出であります。

京都大学に感謝せずに何をおられません。
職を閉ぢますと、小学校から大学まで多くの恩師諸先生の訓えを受けました。就中、小学校の田中靖長先生、先生には「偉くなるのは太鼓の印を押して保証する」と云われて、神童扱いをされ、級友から「太鼓の印」のニックネームをもらい、中学では、有名な京二中の中山再次郎校長先生、山本良吉教頭先生（後、京都帝大學生監・学習院教授、武藏高等学校の名校長）から特待生にしてもらつたり……、こんなことを書くのは全く恥かしいことですが、老人の繰り言としてお許し下さい。三高時代は森総之助先生（物理・後三高校長）に特に訓陶を受けました。「十で神童、二十で才子、三十過ぎれば只の人」と、凡人となつて下さいましたが、しかし京大電気では、天下の秀才を学生としてをこがましくも教壇に立たされ、共に勉強できましたことは、終生の幸福でありました。大学では青柳榮司先生（青柳健次（昭6卒、阪大名誉教授の御尊父）には、終始御薰陶を忝うした大恩人であります。先生は、電気評論（現在66周年）・電気工学講習所・青柳研究所（現応用科学研究所）等の創立創立など常に時代に先駆けて企画実現された。またよく講義の合

い間に、常識の涵養・宗教的信念が、現在、アメリカ電気学会には「技術者の倫理」が制定せられていましたし、我国でも、今、政治家の倫理が議会でも問題になっています。六十年以上も前に、このようなことを強調されていたことは常に時代に先んずる先見の明として、頭のさがる思いが致します。

先生から大きな期待をかけられな

松田先生米寿の賀

日本原子力発電(株)相談役
大正十四年卒 一本松珠璣

松田先生が米寿をお迎えになつた。おめでとうございます。本当に心からお喜びを申し上げます。

先生は私達誰にとっても懐かしい先生、親しみ易い、心おきなく話の出来る先生、何を言つても温かく、親身になって話を聞いて下さる先生、そういう松田先生にはいつまでも長生きをして頂いて私達の言うことを聞いて頂きたいのです。

私達がこんな勝手なお願いを申し上げて誠に申訳ないことであります、考へて見ると長老は若い人の話を聞いて、何かを与える。時には唯黙つて聞いて下さつてい

がら大きな実を結ばず、碌々として過ごして下つたことは恥愧に堪えない次第です。

[12] 烏兎茫茫八十年、社会の様相はすっかり変つて来ました。殊にエレクトロニクスやコンピュータの発達は、将来どこまで進んで行くか予想もつかない位であります。全くうかうかと、いつの間にか、ここまで辿りついて来て下つたとの感じで、日暮れて道遠しの感、一入の今日此頃で、全く愧ぢ入る次第であります。

第二のお願いは電気評論に対する先生の情熱をこの上ともお願いしたいことであります。米寿の賀を申し上げるとき、誠に厚かましいお願いで申し訳なへは存じますが、電気教室の古い伝統から今日の電気評論を是非守つて頂きたいのであります。大学の息がかりで生きている専門雑誌としては世界中でもユニークな存在と存じます。一寸ちがいますが、五十年も前の米国のAIEEに魅せられて先生の独自のお人柄で今日の雑誌があることは有難いことと存じます。先生の御努力のおかげで、編集・企画はもとより、毎号、含蓄のある随筆を載せて下さることで、私など必らず読ませて頂いております。

先生は私もおもるお元気さで申し分はない。洛友会会長として会の行事、会誌の発行には特別の御努力を頂いております。先生が今日なことは、いつも感銘いたしております。

私は松田先生が、このような京都の霊氣を持つていらることで、京都を愛する私はいつも有難いと思つています。京都では大学の教授というと一種特別な零闇気を持つてゐる風がありました。先生には少しもそのような所がなく、今は京都の各界の古い名士の集まりもあり、先生はその良きパートナーであられることで、私の亡くなつた義兄なども松田先生とは格別に親しくして、自分のやつていた一種の社会事業のこととも、あとは松田先生にお願いしています。この会には、相当に口やかましい人もありますが、先生は温厚な一種特別な京都人の零闇気を持つてゐます。

先生の米寿の賀に、愚作一首を捧げましたものを付け加えさせて頂きます。

すこやかに白寿を次に

我が師の君よ

(一九八〇・十二・五)

松田先生の米寿をお祝して

北陸電力(株)相談役
昭和五年卒

金井久兵衛

かに京の地を想つた事である。

松田長三郎先生の米寿をお祝する会が京都で催され、何をおもて出席する予定にして居た所、数日前になつて私事ながら十一月二十九日には在富しなければ嬉しい限りである。然かも、心身ともにちつとも昔と異つて居られぬ。洛友会報には毎号色々お書きになつて居られ、何時も読みながら御氣力の程を察し、又お身体の御様子は、時折お目にかかるが驚く位お異りになられない。

になることは驚くべきことであります。これからは先生もお年でありますから、我々も氣をつけておられました。特に宗教的情操・信念について強調されていましたが、現在、アメリカ電気学会には「技術者の倫理」が制定せられていましたし、我国でも、今、政治家の倫理が議会でも問題になつて、頭のさがる思いが致します。

先生から大きな期待をかけられな

がら大きな実を結ばず、碌々として過ごして下つたことは恥愧に堪えない次第です。

先生は京都人としての特有の霊氣を持つていらることで、京都を愛する私はいつも有難いと思つています。京都では大学の教授

といふと一種特別な零闇気を持つてゐる風がありました。先生には少しもそのような所がなく、今は京都の各界の古い名士の集まりもあり、先生はその良きパートナーであられることで、私の亡くなつた義兄なども松田先生とは格別に親しくして、自分のやつていた一種の社会事業のこととも、あとは松田先生にお願いしています。この会には、相当に口やかましい人もありますが、先生は温厚な一種特別な京都人の零闇気を持つてゐます。

先生の米寿の賀に、愚作一首を捧げましたものを付け加えさせて頂きます。

すこやかに白寿を次に

我が師の君よ

(一九八〇・十二・五)

先生の教えを受けてから既に五年を越して居るが、昔のままに感ぜられるのである。

を与えられた想であった。
尚先生は決して駅等へは早くお
着きになられず、然かも必ず間に

の米寿祝は白寿の前祝と考えて居る。

松田長二郎先生米寿記念祝賀会

しあげた事を再び書かせて戴いて
懸々先生の御健康御活達な日々を
お祈りして居ます。

貝板谷良平氏の司会で開かれた。先づ発起人代表本多静雄氏より

京都に於けるお祝の時の情況は、欠席の為知らない故、以下或は重複する事を述べる事になるやも知れぬが、御謹承を願つて去る十一月八日富山市に於て松田先生方をお迎えして、洛友会の北陸支部総会を開催した折の事を書かせて貰う。

その日北陸としての議事の後、会食懇談に移つたのであるが、松田先生の米寿の喜びを中心の話題であった。そして先生は、米寿を迎える事は嬉しい事であるが、自らはかかる事等に気を用ひて居ると言ふ。そこで先生は、米寿を迎える事は嬉しい事であるが、自らはかかる事等に気を用ひて居ると言ふ。日々お歩きになる御様子である。そしてその席で洛友会の歌を御自身独りで朗々とお歌ひになった。身独りで朗々とお歌ひになつた。御承知の通り之は先生の作詩作曲である。又京大の名譽教授室で他の部の先生方との接触の御話もなされた。そこで私見で失礼な次第とも思うが、その様にして電気工学の世界のみならぬ広い世界をお持ちの御様子である。又御自身お出かけの要ある他地の会合には必ず御出かけの御様子である。米寿と云えば私にとつてはまだ十数年も彼方の日である。先生のお喜びの日に心身の処理に省る機

会ふ時間に姿を見せられる相である。御心の持たれ様も伺える次第と見えさせられる。先生が前述の通り身体の扱ひに気をつけて居る所と話された項目に、私はこの様なお心持ちもとづけ加えさせて戴いた事である。曾って約十年前エヂソゾ誕生記念の会が韓國で持たれた時、御一緒に出かけた事があるが、そんな折の先生の举动に教室で電気工学を教はった外に色々心身の扱ひを教えられた事を今想ひ起す事である。

尚私事をばかり書いて恐縮であるが、私は電気事業界では松永安左衛門翁に教えられまた感されたが、翁は百二十才まで生きるとして、皆様御承知の松村謙三先生が中国に行かれる折（日本と国交正常化前）、かの奥地に生えてる油瓜の種を得度いと望まれて、松村先生がわざわざお持ち帰りになつた事がある。然し翁の願望は達せられなかつた。又私は鈴木大拙師に永く教えを載いて來たのであるが、その大拙師は鎌倉で腸捻転を急発され土地柄の為手当てがおくれて不幸を見られた。御兩人とも九十六才であったのである。

松田長三郎先生は、去る十一月二十八日、日出度く満八十七才の誕生日をお迎えになったので、本年三月発足した米寿祝賀記念会の発起人代表（芦原義重氏はじめ六名の洛友会副会長）と実行委員の世話を、翌二十九日都ホテルで米寿記念祝賀会が盛大に開催された。当日は松田先生とご家族（長男長生氏、同綾子夫人、長女静子さんと次女芳子さん）をお招きし、洛友会々員有志二〇七名が参集して、午後四時から記念祝賀式が開かれた。先づ実行委員代表大谷泰之氏司会のもとに、記念会の経過報告と開会の挨拶があり、次いで芦原義重氏より記念会を代表して心こもるお祝いの言葉が述べられた、引続きお祝いの花束の贈呈と、芦原氏より松田長三郎先生随筆集と別冊「拓けゆく技術」及び記念品料等の目録の贈呈が行われた。

この隨筆集の刊行は記念事業の中心として企画されて以来、数ヶ月に亘る松田先生御自身のご熱意と、近藤文治氏を中心とする編集委員の涙ぐましい努力によつて、

漸く祝賀会の前日に完成したばかりのもので、当日は出席者にも贈呈された。ご承知の通り松田先生は誠にまめな健筆家で、各方面から依頼に応えて書かれた多彩且つ珠玉の如きご執筆が余りにも多いことから、先生の強いご希望によりB五版横組みという隣筆集としては誠にユニークなスタイルにしてお数百頁以上になることが判明したので、止むを得ず隨筆集(洛友会々報その他に掲載された約一五〇篇の隨筆を纏めた約四〇〇頁のもの)と別冊「拓けゆく技術」(七〇篇の技術エッセイを収めた約九〇頁のもの)との二部を刊行することになったのである。

さて祝賀式は統いて、洛友会関西支部長大森武司氏と教室代表上之園親佐氏の祝辞があつて、最後に松田先生から心暖まる謝辞が述べられ、午後五時一先づ式が終了した。

次いで別室で先生とご家族を囲んで二組に分れて記念写真の撮影があつて後、午後五時半より大宴会場において記念祝宴が、実行委員

祝いの乾杯があつて宴に入った。一同のどうるはした頃、松田先生作詞作曲の洛友会の歌の一番を先づ松田先生が米寿を迎えた。先生とは思えない朗々たる美声で独唱され、続いて二番以下を先生のリードで一同楽しく合唱、先生で自筆の楽譜を一同手にして「また合う日まで楽しく生きなん」と合唱を終つて後、スピーチに入り名譽教授代表前田憲一氏、元関西支部長伊藤俊夫氏、講習所卒業生代表立石亨三氏、東北支部長二村忠元氏、講習所東京代表中村秀治氏等からお祝いのスピーチがあつて、最後に近藤文治氏より隨筆集編集委員を代表して編集作業の苦労話があり、祝電披露の後、芦原氏の発声で万歳を三唱して、先生ご家族を一同拍手を以つてお見送りして閉会したのは午後六時四十分であつた。

以上米寿祝賀会の報告を終るに際し、当日御臨席賜った松田先生とご家族に對して、厚くお礼申上げる次第である、なお又ご多用中にも拘らずご出席頂いた芦原、本多、真田氏をはじめ多数の会員諸氏に深謝するとともに、献身的な

感じると共に、瀋陽と北京と上海とでは、街の感じ、風物習慣、又中國の人にきく所では、言語の通じ方など、地方色の違ひは、日本での夫れとは一般と異なるものであることを感じました。

この広大な中国での電力の事情については、東大関根先生の御調査(電気学会誌五十五年四月技術レポート)にもあります様に、人口十億に対して発電設備容量五二〇〇万kWで、我国の一億の人口に対する一億一千萬kWと対比しますと、この面からの現代化は、道甚だ遠しいと思ふが、前途洋洋々と

〇〇〇万kWで、我が國の一億の人口に対する一億一千萬kWと対比しますと、この面からの現代化は、道甚だ遠しいと思ふが、前途洋洋々と

を祈る次第であります。(終)

いふか、今後の大きな問題を抱えていると申せましょ。電氣機器については管見しか申し上げられませんが、33万Vまでの各種電力機器は、ソ連の技術から出發したもの、日、米、欧、との合作によるものも含めて一通り

何でも出来るといふ形になつてゐる。種々の迷信を生んだ。なかでも歴史に大きな影響を及ぼしたもののは、辛酉の年には革命があるといふ辛酉革命の説である。

ところで、最近の世界情勢をみると、石油危機、国家間の紛争、環境汚染、異常気象、凶作など無味な倦怠が現れてゐる。昔から

問題のない時代ではなく、内容が時代に応じて変つてゐるだけかもしれない。特にマスコミが発達する

と、現象を多面的に把握しないで一般的な現象をセンセーションで報道するきらいがある。しかし問題が起つた場合のリスクは文明

が発達した時程大きい。

日本では豊かで太平な世が長く続いたせいか、物と心とのバランスが崩れ、人々に忍耐力が乏しくなり、自己中心の甘えが目立つ。

人々は國家や社会が一方的に自分に奉仕することを要求するが、これらに対するそれなりの勤めをしないばかりか、その不運や不備を容赦なく責める。家族や周囲の人々との心のつながりや思いやりも、より個体の寿命など予言できるものではなく、集団としての壽命を統計的に推定できるだけである。昭和五十四年の平均壽命は厚生省の発表によると男七十三、五歳、女七十八、四歳である。平均壽命は、零歳の平均壽命のこと

で、生まれたばかりの人が今後平命の戒ではなかろうか。電話を元に戻すが、干支は周期十の十干と十二の十二支を組合せたもので、その周期は十と十二の最一・三歳、女十三・八歳である。

寿命はある時点の年齢別死亡率が

今後とも続くものと仮定し、簡単

な数学モデルによって推定したも

のである。例えば十万人が生ま

れた場合、零歳で何人死亡し、一歳

で、生き残り、二歳で何人

死亡し、三歳初めに何人生き残る

かというふうにして順次死に絶え

るまでの基本パターンが計算でき

る。もし十万人が毎年生まれ、毎

年同じ年齢別死亡率が統けば、人

口はある一定値になる。以上のよ

うな計算結果を表にしたものが

「生命表」である。この表から

年齢別平均壽命、同じ年に生まれ

た人のうちある年齢まで生き残れ

る人の割合、あるいは最も多数の

死亡数を出す年齢などが分る。生

命表は生命保険の基礎資料になる

など簡単なものであるが、なかなか興味深いものである。

さて少し脱線したが、中村さん

の平均壽命は二年どころか二桁も

ある。しかも生き気がずに心にゆ

とりを持つて充実した生活を送れ

ば、平均値よりはるかに長生きで

きる。どうぞお孫さんとたっぷり

楽しい時間を過ごしてください。

午未申酉戌亥を順番に

組合せた記号(甲子、乙丑、…)

とり年あれこれ夫井上幸夫

（昭和三十二年卒）

癸酉、甲戌、乙亥、丙子、丁亥

で年、月、日に当てて用いる。

火土水木とする五行説があつた。

これに陰陽説を結びつけた陰陽五行説が、万物の生成、変転の原理

とされていた。日本ではこの五行

とされいていた。日本ではこの五行

を陽の兄(え)と陰の弟(と)に

は、辛酉の年である。干支は十干

と十二支(子丑寅卯辰巳)を順番に

書いてみたい。

最近日常生活では年賀でもなければ干支など登場しないが、今年

は辛酉の年である。干支は十干

と十二支(子丑寅卯辰巳)を順番に

書いてみたい。

そこで、貴重な紙面を拝借し、

とりに縁のあるあれこれについて

思いつくまま独断と偏見をまじえ

て書いてみたい。

これまで、年賀状には、鶏が色々な姿で登場した。小生とり年生まれ

なので、今年の年賀の感概はひとしおである。

今年の年賀状には、鶏が色々な姿で登場した。小生とり年生まれ

天はきっとそれ以上の時間を授けられることがあります。

終りの方になつて恐縮である
が、松田先生の米寿はまことにお
めでたいことで、心からお祝い申
しあげる。

第十二期日本學術會議

第十二期日本学会 会員選挙に當り

校の先生の次の歌であった、
鶴鳴く声す　夢醒せ
見よ明け渡る東を　ひんがし
空色映えて　沖つ辺に　もや
帆船群れいぬ　靄のうち

選御礼の辞

術會議

六
八年卒 上之園 親佐
部教授

議會員に立候補して欲しい旨の申
し出があつた。京都大学の電氣系
教室では、前田憲一先生が第九期
の會員となられた後、第十期、第
十一期と會員が出ていないので、
「私に出よ」ということと解し、
「身の程知らず」を「教室のた
め」と勝手に置きかえて、教室の
先生方の心情に応えて立候補する
ことにした。

立候補の意志表示をした後は、
選挙への無関心さから何をすべき
かわからぬまま、瞬く間に二、三
ヶ月が経つた。その頃教室は岡田
教授を選挙參謀として選挙対策が
着々とすすめられていたようで、
五月頃に気がつく始末であつた。
何も知らんということぐらゐ呑気
なことはないが、日が経つうちに
いろいろの選挙の動静が伝つてく
るので、こちらも安閑としておれ
なくなるし、遂に手遅れかとも案
じ始めた。すなわち、A候補先生
は一年前から有権者の壇おこしに

かかられておられるとか、B会社はC先生を推しておられるとか、私は当選しそうにないとかなどいろいろ耳に入つてくる。若し落選するようなことになると、教室の先生方には勿論、洛友会々員の方々に申し訳ないことをしでかすような気持になつてきただ。

私は候補したからには落選するわけには行かないという気持になつたのは七月頃であった。当選するからは、まず第一に、洛友会々員の方々、第二、私の電力技術の育成にご尽力していただいた電力中央研究所、ご指導を賜つた電力会社九社と、電源開発㈱、第三、私の電力技術の研究開発にご協力とご指導を賜つた総合電機メーカ、重電機メーカ、電線メーカ等の強電関係研究者・技術者・第四、各種企業の強電関係研究者・技術者、第五、大学の強電関係先生と研究機関の研究者のご支援とご協力を仰ぐことにして、行動を開始した。私にとって、教室の先生方が熱心に選挙運動をしていただくので、私は吸い込まれるようになり、全国行脚に乗り出しました。

今度の選挙では、多數の大学の先生とお会いして、教室の運用についてお伺いすることができたことは有益であった。特に新刊雑誌については、手数をかけないで、楽気に手にすることができるよう

のところ私の選舉についてご高配に預りましたことを、この会報を通じて厚くお礼申し上げます。

票読みの辛さをはじめて味あつた。教室の関係者が一堂に会して、選舉運動の感触などから票読みを行うが、どの程度の偏差に入っているが仲々苦勞なことである。票読みの結果をもとに次の作戦に入るのだが、選舉參謀の岡田教授のご苦勞は大変なものであつた。選舉関係者が進んでご協力して下さったことは、大変有り難いことでした。九月末の票読みでは三千票位ということで、関係者一同が最後の票集めに入った。この頃になると、大体大勢が固まつてきて、票集めが困難になつてきていることを痛感してきた。十月末日で票集めを終つたが、私には票数の概数が読み難いが、選舉參謀は四千票には達したのではないかと漏らしていた。この数値は当つていた。

佐々木英四郎氏（大正14年卒）追悼十首

日立電線顧問
大正十五年卒 小宮義和

此の秋は時代祭観むと宣らせしを祭近づき君逝きませり
猪鼻峠

讃岐より阿波に越えゆく峠みち段々烟に蕪麦白く咲く

計報
高知皿鉢料理

龍河洞の暗きを巡り三翠園の錦手皿にさかな溢る

桂浜

大海原を睨む龍馬の像の下に五色の貝を君と拾へり

道後

山越しの疲れ癒やせる温泉にて伊予万才のをかしきを愛つ

徳島火力

徳島に行けるを言へば君の家が近かかりしにとすだち送らる

日立戸塚病院

鎌倉に病みたる君訪ひわが病の永かりしをば君に語れり

奈良

腰を病む我を憐みおのれまた山の仕事に腰疲るると

阿波踊

深山より君の筏を流したる那賀の水やけふも流るる

（五五、一一）

那賀川

腰を病む我を憐みおのれまた山の仕事に腰疲るると

（五五、一二）

た。十二月一日の朝刊に当選者の氏名が発表されていて安堵すると共にこの選舉に關係していただいた教室の先生方、洛友会々員の皆様方、多くの知人、ご支援とご協力を賜った方々に「有り難うございました」という氣持で一杯となつた。有り難うございました。

振り返つてみると、大田田をもたずによくも立候補したものだと思つ。他所からみると、盲蛇になつた。

頓野君の思ひ出のひとこま

おじすの喻え通り無謀なことをするものだと思われたことと思う。昭和五十六年一月二十日から向う三ヶ年間、日本學術會議會員として勤くことになりますが、ご支援とご鞭撻を賜りますよう衷心よりお願い申上げます。

末筆乍ら洛友会の皆様からお寄せ下されたご支援、ご協力、ご激励に対し心からお礼を申し上げて筆を擱きます。

（略）

頓野君（昭和4年卒）が日立に入社されて以来、個人的には洛友会窓の友人として御付合い頂いたが、仕事の面では余り深い関係が無かつた。しかし、私が昭和二十四年六月、當時通信機業界不況の日立戸塚工場に赴任した時、君は技術設計方面を担当して居られ、退勤後テニスも大分御指導頂いたが、戸塚工場再建の戦友として公務の深い御付合いが始まりた。君は教育家を父に持ち、長州萩の出身であることは承知していたので、小学生の頃から吉田松蔭を尊敬していた私は、君の人となり特に関心を持った。

皆様も御存じの通り泰然自若として悠揚迫らず、口数の少い立派なお人格柄であることは申す迄も

頓野君の思ひ出のひとこま

日立建機相談役 橋本真吉

大正十四年卒

橋

本真吉

組織体や団体では目から鼻に抜

ける様な切れる頭の人も大切と思ふが、上に立つ人程君の様な器の大きい人も亦益々必要と思ふ。千三百年の風雪に耐えた世界最古の木造建築物法隆寺の堂塔も、これが修復に取り組んだ宮大工の頭梁西岡常一さんのお話によると、古代の工匠の工法から学び得た発見は、如何に良質の桧でも、生育時の環境によって避けることの出来ない癖と癖を巧妙に取り合せ組み立てる美事な手法によつて、長年の記録的生命力が与えられたそ

うである。この様な意味に於て特に君の様な人をうしなつたことは誠に追弔の念は堪えないまま、筆をとつて思ひ出の一端を記し、わが尊敬する畏友の御富福をお祈りする次第である。

電流を用いた素粒子や核を研究の対象としたもので、いわばハイ・インピーダンス的アプローチといえ
る。これに対し、イオン工学では
数ボルトから数百ボルト、いくら
高くとも五〇〇 kVまでの加速電圧
を用い、電流は mA からアンペ
ア級におよぶ大電流を用いて、化
学エネルギーや熱エネルギーの一部
または大部分を運動エネルギーや
イオンのもつ電荷の力で置きかえ
て新しい応用分野を開発しようと
するもので、いわばロー・インピ
ーダンス的アプローチといえる。
たとえば、イオンを加速したと
きの運動エネルギーは熱エネルギー
に換算すると、たとえ二〇〇ボ
ルトの加速電圧でも二三〇万度に
相当する。したがって実際には実
現不可能なくらい高いエネルギー
を必要とするものでも運動エネル
ギーとして与えたことになり、從
来法では実現困難な表面コート、ティ
ングや薄膜蒸着、さらには化合物
合成や結晶成長が可能となる。し
かも加速電圧すなわち基板表面に
入射するエネルギーを適当に変え
たり、イオンの量を変えることに
よつて機械的性質（付着力、膜の
密度、表面の平坦度）、光学的性
質（蒸着した膜の屈折率、反射
率、減衰率）、結晶学的性質（ア

モルファス、多結晶、単結晶など蒸着膜の構造)が縦方向にも横方向にも自由に変えられる。」とくに、本研究施設関係者らが開発した金属蒸気クラスター・イオンビーム技術は、五〇〇個から二〇〇〇個の原子が集まって緩く結合した塊状原子集団(クラスター)をつくり、それに電子のシャワーを浴びさせてクラスターを構成する原子群の一個の原子をイオン化してクラスター・イオンとし、加速電圧を加えて加速し基板(固体表面)に射突させて良質の被膜形成や結晶成長を行う技術で、独創的新技術として注目されている。

質を解析して調べる必要がある。二五と二〇〇k ν にいろいろなイオンを加速して照射しチャネリングやバックスキヤッタリング現象を用いてこれを行う固体表面解折装置も整備された。また、蒸着やエッチングには高すぎるがイオン注入には不充分な四と二〇k ν の範囲での研究を行なうイオンビーム照射装置が設置された。この装置からは「蒸着・注入併用法」と云う新しい技術が開発された。このほか、 $10^{-10} \sim 10^{-9}$ Torr の超真空中で金属蒸気による結晶成長機構を解明し、真空を破らないで「その場観測」の可能なイオンビーム結晶成長装置やクラスタサイズ測定装置などが整備されている。

二階はクラスター・イオンビーム蒸着装置などが二部屋に分れて整然と並びSiデバイス、磁性薄膜デバイス、酸化物、窒化物、炭化物などの薄膜成長によるオプトエレクトロニクスデバイスなどの開発を目標に研究が進められている。

三階には教官研究室、学生研究室と並んでデータ処理室がある。各階の実験装置とデータ通信回線で連絡されるミニコンピュータが大型計算機センターに直結されている。

四階は一、二階で製作された各種薄膜や結晶成長膜をデバイス化して特性を測定し新しいデバイスを開発の研究を行うと共に、得られた特性を通じて結晶性の評価やオンビームと固体表面との相互作用を評価し、その結果を一、二階の実験にフィードバックする。この階の研究室は、薄膜をデバイスマ化するための微細加工、マスクアーマメント、電極付、不純物拡散などを行なうデバイス製作室、反射型電子顕微鏡観測、ホール効果測定、C-V特性測定などを行なう薄膜デバイス実験室、蒸着物質のエッチング、表面処理を行なう薄膜処理室の3部屋から成っている。また薄膜の構造解析、結晶の評価を行なうための高性能X線回折装置が備えられ三階のミニコンピュータに連結されている。

地階はレーザビームによる薄壁デバイスの光学測定や磁性薄膜の高密度書き込み実験などを行なう暗室と機械室、電気室から成っている。

以上の設備のもと、施設長高木俊宜(電子教室電子装置講座担当兼任)、専任助教授山田公を中心とし、電子装置講座、大電力イオン源特別装置室のスタッフなどの緊密な協力により研究活動が軌道に乗った。学生諸君にも新しい分野の研究を整った装置と環境のもと

に経験させることができ、教官と学生が一体となって教育、研究の実をあげつつある。
おもえば、昭和47年、ウイーンの国際会議で初めてビームプロセス形イオン源や金属蒸気クラスター・イオン源を発表して以来、貫してイオン工学あるいはイオンビーム工学的技術体系の確立を唱しつづけ、多くの新しい研究成果を得て、昭和53年4月の実験施設設置、今回の研究棟完成まで運びつけることができた。ここまで育てて戴いた周囲の方々に深甚の謝意を表したい。

同窓会記事

昭和五十五年

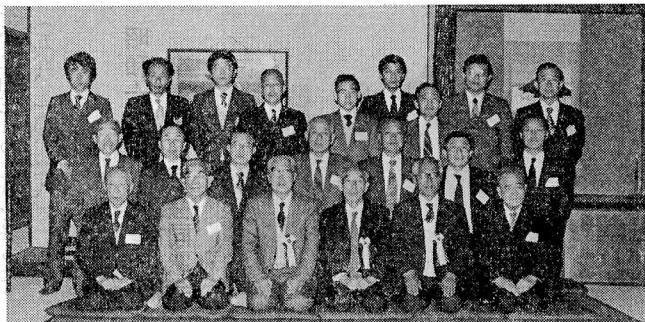
北陸支部総会報告

昭和五十五年北陸支部総会を十
月八日、富山市郊外「松月」に
おいて開催しました。本部から恩
師、松田会長、近藤先生の御出席
各地の会員二十名が出席しまし
た。

生をお迎えし、当支部からは北陸
各地の会員二十名が出席しまし
た。さらに支部在住の大谷先
生を頂き、さるに支部長の大谷先
生をお迎えし、当支部からは北陸
各地の会員二十名が出席しまし
た。

はじめに、西岡支部長の挨拶、
松田会長の挨拶、支部の近況報告

会計報告がありました。つづいて
会則を一部改正し新たに顧問を設
け、荒井前支部長ならびに金井本
部副会長に就任していただきました。
また他の役員も一部改選しま
した。さらに、近藤先生から校舎
の改築など教室の近況についてお
話がありました。



引続き懇親会に入り、先生方を
囲んで時間を忘れて楽しい時を過
しました。特に松田先生の御元氣
さには一同感嘆し、心許の米寿
祝をお送りしました。興が乗り歌
も飛び出し、最後に松田先生作詞
作曲の「洛友会の歌」を先生のリ

その席上、大森支部長よりご挨
拶があつたあと、会員代表として
松田会長より謝辞が述べられ、ま
た上之園先生から電気教室の近況
をご紹介いただきました。最後に「洛

十四日会第二十回大会

大正十四・十五年合同十四日会
は、年々全国各地で夫人同伴の大
会を開いて来たが、昭和五十五年

さる十一月十六日(日)、関西
支部では恒例の家族見学会を行な
い、多武峰・談山神社と法隆寺を
訪ねた。

談山神社は関西の日光といわれ
て、金堂、五重塔、宝物殿、夢殿な
どを、各自思い思いのペースで拝
観した。

この日は相憎と朝からどんより
と曇っており、法隆寺を見廻った
頃には、すでにあたりはすっかり
と暗くなってきたが、幸い雨にも
見舞われず、大した渋滞もなく、
ゆっくりと秋の一日を楽しむこと
が出来たと思う。(八田記)



一ドで全員で何度も合唱し幕を閉
じました。

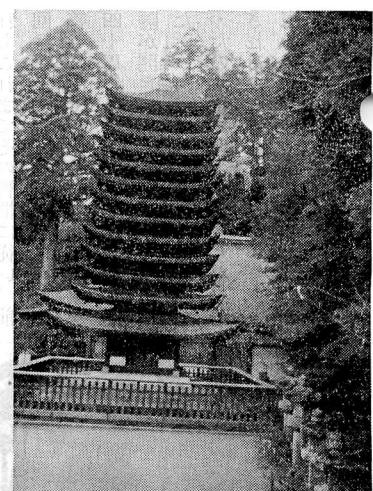
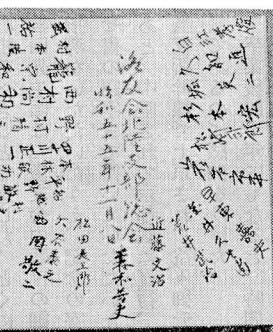
関西支部家族見学会

支部では恒例の家族見学会を行な
い、多武峰・談山神社と法隆寺を
訪ねた。

戴しております、これをバックにして
お二人のご指導により、全員が唱
和しました。

帰路、法隆寺では二時間をかけ
て金堂、五重塔、宝物殿、夢殿な
どを、各自思い思いのペースで拝
観した。

この日は相憎と朝からどんより
と曇っており、法隆寺を見廻った
頃には、すでにあたりはすっかり
と暗くなってきたが、幸い雨にも
見舞われず、大した渋滞もなく、
ゆっくりと秋の一日を楽しむこと
が出来たと思う。(八田記)



度は京都で第二
十回を開いた。
十月二十一日

午後、南禅寺前
八人集合(夫人
同伴十五人)

庵氏別邸碧雲莊
の庭園拝観。三

時会員は九条山
の鳥養先生の御墓に詣った。その
間に夫人達は岡崎公園の京都伝統
工業館参観。

夕六時より宿所に松田、羽村両
先生の御来臨をお願して記念宴開
催。

五年前泉涌寺で物故された諸先生、同窓の慰靈法要を嘗み、東福寺芬陀利院の青柳先生のお墓参詣後、十人の物故者もあり、特に今年は大会のために色々世話して下さった宮田秀介氏、佐々木英四郎氏が逝去されて、一層寂寥を感じられ、一同物故諸先生並びに同窓く不参の方もある。一本松幹事から、ひたすら健康保寿の自戒が述べられたのはお互の心を打った。

習二十二日は正午より京都御所の建礼門前で時代祭の行列観覧。二時より西本願寺参詣。聚楽第より移築の滴水閣と飛雲閣・御影堂・阿弥陀堂・桃山城遺構の大広間、白書院・黒書院・南北二つの

夜は嵯峨嵐山の「嵐亭」に宿泊。二十三日は午前嵯峨野散策。化野念仏寺・二尊院・落柿舎・野の宮・天龍寺などを経て、中の島

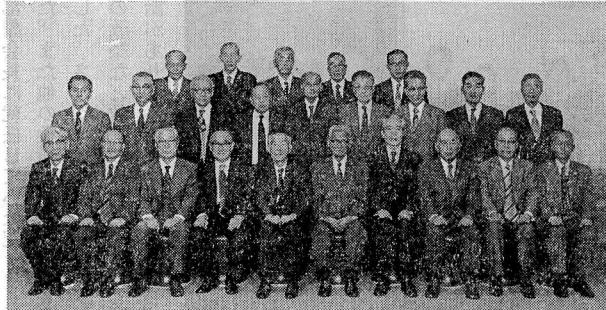
の宮・天龍寺などを経て、中の島在住者がお世話をすることにきめて、二泊三日の交歓を終った。

(五五、一〇、二八)

小宮義和記

昭和十五年

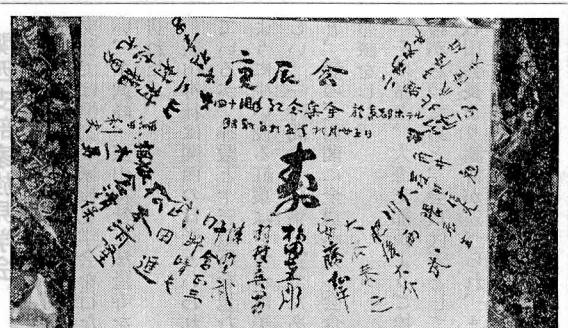
卒業生庚辰会同窓会



去る十月二十五日夕刻、京都ホテルにおいて昭和十五年卒業生の四十周年同窓会を開催した。

恩師松田先生、羽村先生、安藤先生、清野先生、大谷先生には御臨席をいただき、学校時代よりのなつかしい御訓話をいただき、年寄りくさくなつた吾々よりもむしろ若々しい先生がたの御顔を拝見して、吾々もさらに一層の活動を中心掛けるべきことを感じた。とくに松田先生には「洛友会の歌」の御指導をいたいたうえ、記念の寄せ書の題字まで書いていただいた。

卒業後四十年にもなると、時間的に若干自由のきく身分になつた者がふえ、前回の三十五周年同窓会には出席しなかつて卒業以来は



昭和十八年卒

還暦記念同窓会の記

昭和十八年九月卒業のわれわれにとって、平均的には今年が還暦の年に当るということで、還暦記念と銘打つて、去る十月二十五・二十六日の両日、「金沢在住の田辺君の世話を金沢でクラス会を開きました。」全国クラス会は卒業後二十年、二十五年……という具合に五年毎に開くのが一般のようですが、われわれもこれまでその習慣に従い、前回は卒業三十五周年クラス会を修善寺長岡で開いたのですが、次が四十周年ということでは、少し間隔が開きすぎるとの声がありました。一方では「もうそんな年になつたのかなあ」と子供達から冷かされるのを恐れ、何か正々堂々と家をあける理由がないかと、幹事が頭を絞つて思ついたのが「還



じめて顔を合すものもあり、各人の現況を自己紹介しあつて、久しうぶりに同級生の健在を確めあつた。尚後は五年毎でなく、もつと間隔をつめて会合し度いとの希望が多かった。翌二十六日には有志の者が近江カンントリー・クラブで白球を追つて、一日を楽しく過した。(小南光夫記)

十月二十五日金沢駅に集合、バスで、尾山神社、兼六公園など名所観光の後、夕方湯湧温泉の豪華なホテル白雲荘で宴会、宿泊しました。

宴会では、世話役の田辺君が用

さて集つた面々は、池上、稻野夫妻、上之園、植田夫妻、氏原夫妻、小田夫妻、河原夫妻、川本夫妻、近藤(文)、角田、杉根、高木、並木夫妻、藤井(克)、森、以上総数二十二名。

十月二十九日金沢駅に集合、バスで、尾山神社、兼六公園など名所観光の後、夕方湯湧温泉の豪華なホテル白雲荘で宴会、宿泊しました。

宴会では、世話役の田辺君が用

た。

さて集つた面々は、池上、稻野

夫妻、上之園、植田夫妻、氏原夫

妻、小田夫妻、河原夫妻、川本夫

妻、近藤(文)、角田、杉根、高

木、並木夫妻、藤井(克)、森、以

意して下さった赤い頭巾とデンチを、かわるがわる着せて貰つてスナップに納り、童心に帰つて、夜遅くまで、語りかつ歌うなど思い出多い夜でした。

翌日はバスで能登半島巡りに出掛けました。天気は晴れているかと思えば、アラレの小雨が降るといつた北陸特有の変化の激しい天候の上、海辺では吹き飛ばされそうな強風が吹いていましたが、これが逆に幸いし、白波の荒狂う日本の景観はまたとない素晴らしさでした。特に景勝の地能登金剛の島々が、真白に泡立つ海中に波しぶきに濡れて浮んでいる様は全く印象的でした。

能登半島観光を堪能した後、次回卒業四十周年クラス会での再会を約して、午後二時半金沢駅にて解散した。

最後に今回のクラス会のお世話を下さった田辺君に厚く御礼申し上げます。
(近藤文治記)

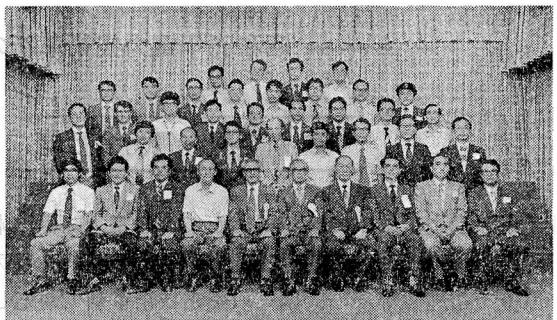
京都大学から近藤文治先生、池上淳一先生、上之園親佐先生、東京大学から大林辰蔵先生(昭和36年卒業)、電離層研究施設に在職)。

の出席を賜わり、池上先生のご挨拶の後大林先生のご発声で乾盃し宴にはいった。

に再会を期して散会した。会のあと、グループに分かれ、思い思いの二次会に出かけた。

当日写真および寄せ書は別紙の通りです。

なお、本同窓会に名前を付けてはどうかの提案があり、今回「四十会」と名付けることにした。(今回の幹事は電々公社在職者が行いました。)



同窓生は在関東が二九名、在関西が六名出席し、前回京都で開催であつたため、卒業以来15年振りの顔もみられ久しぶりの再会を懐んだ。

先生方からは、電気系教室の紹介や当時の思い出、電力技術に関する最近の動向、などの話をいただいた。つぎに、同窓生が会社別に一人づつ近況を報告した。

最後に、石黒君の指導で琵琶湖周航の歌、逍遙の歌を全員で歌い

次回を関西方面で行うこととし、幹事を三菱電機在職の方(今回杉山君が出席)にお願いし、五年後

上淳一先生、上之園親佐先生、東京大学から大林辰蔵先生(昭和36年卒業)にお願いし、五年後

京都大学から近藤文治先生、池上淳一先生、上之園親佐先生、東京大学から大林辰蔵先生(昭和36年卒業)にお願いし、五年後

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

月刊

月
10日発売

電気工学界の先端をゆく電気総合雑誌

電気評論

~~~~~ 昭和55年電力技術革新のあゆみ特集 ~~~~

特集新年号・電力会社編

定価 1200円 送料 75円

当社発足以来引き継いで毎年掲載している電力関係技術の総集編、各電力会社副社長のご執筆をいただいて、各電力会社、電源開発、日本原子力発電の昭和55年度の技術革新の精華を集める。エネルギー、環境、用地難等々の問題に敢然と技術革新で対応しておられる実態が生々しい。

|          |
|----------|
| 北海道電力編   |
| 東北電力編    |
| 東京電力編    |
| 中部電力編    |
| 関西電力編    |
| 中国電力編    |
| 九州電力編    |
| 電源開発編    |
| 日本原子力発電編 |

|          |       |
|----------|-------|
| 取締役副社長   | 中野友雄  |
| 田松彰一郎    | 田堀正一  |
| 吉田正俊     | 伊藤健一郎 |
| 谷合辰雄     | 松川雄也  |
| 理事       | 竹之内達也 |
| 事務取締役副社長 | 岡吉俊   |

2月号・技術研究編 定価 600円 送料 60円

本号も例年の技術革新特集である。昨年に加え、国のビックプロジェクトであるサンシャインムーンライトを加え、内容を更に充実したものとした。これで我が国の大電力・エネルギー関係の第一線の研究はすべて網らしたことになる。

|             |             |      |
|-------------|-------------|------|
| サンシャイン計画編   | 工業技術院       | 小林正和 |
| ムーンライト計画編   | 工業技術院       | 江堀昇  |
| 電子技術総合研究所編  | エネルギーシステム部長 | 相山義道 |
| 電力中央研究所編    | 企画部長        | 尾出和也 |
| 動力炉・核燃料事業団編 | 計画管理部長      | 佐木寿康 |
| 海外主要国編      | 海外電力調査会     | 島上定雄 |

京都市左京区田中大堰町49

株式会社 電気評論社

電話京都(075) 701-2582